

令和2年度 第2回飛騨市総合政策審議会 議事録

- 【日 時】 令和2年10月19日（月） 13時00分～16時00分
- 【場 所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室
- 【出席委員】 全委員18名中 出席委員15名
- 【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 森会計管理者 泉原総務部長
藤井市民福祉部長 青垣農林部長 清水商工観光部長 青木基盤整備部長
谷尻教育委員会事務局長 中畑消防長 佐藤病院管理室長 野村議会事務局長
野村河合振興事務所長 田之下宮川振興事務所長 森田神岡振興事務所長
舟本水道課長 上畑財政課長（18名）
- 【事務局】 岡部企画部長 三井総合政策課長 土田係長 井口主査 柚原主任（5名）
- 【傍聴者】 3名
- 【会次第】 1. 開会
2. 市長挨拶
3. 会長挨拶
4. 協議
① 令和3年度の政策方針（案）について …… 資料①
② 自由討議
5. その他
今後のスケジュール …… 資料②
6. 閉会

【議事内容】

1. 開会【岡部企画部長】

令和2年度第2回飛騨市総合政策審議会を開催する。

協議事項以外の部分は企画部長の岡部が進行を務める。

本日は3名のご都合により欠席であるが、委員18名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により定足数に達していることを報告する。

本日は、コロナ感染対策を実施しておりマイクの毎回の消毒と休憩時の換気にご協力を願う。

また、今回は、議事録自動作成システムの導入試験を実施しており、あわせてご協力を願う。

2. 市長挨拶【都竹市長】

新型コロナの中、今年は市政全体に運営が非常に難しい状況が続いているが、市内では感染者が出ておらず全国的にも落ち着いている状況であり、社会経済活動も少しずつ戻り始めている。

毎週水曜日の新型コロナ対策本部、月2回の定点観測という形での市内経済状況の調査、更に今個別に商店等にも電話等で状況把握しているが、製造業はかなり回復してきた印象で、11、12月には前年

並みに近い水準まで戻ると考えている。

一般の小売商店では売上減が1割2割程度まで回復しているが、他方で消費マインドに直結する飲食や仕出し、酒屋などは春以降の状況に変化が無く、非常に難しい局面にきている。

当然、それは生活にも影響を及ぼすが、生活相談は新規相談が減少するなど比較的落ち着いており、市が実施する返済免除付きの生活資金の貸し付けでも新規が減少している。一方で、継続的な相談にみえる方の大半が、高山市内の旅館ホテルに勤務の方或いはタクシーの運転手であるなど、飛騨地域全体の経済の中で、大変苦しい思いをしておられる方が一定数あることも承知している。

事業者では、売り上げ低迷がそのまま家計と直結するような家族経営の商店が多くあり、今の生活相談の方で対応していきたいと考えている。

宿泊観光では、週末人出が増えるなどGOTOトラベルの影響が出ているものの、店舗により濃淡が随分出ている。

いずれにしても、世の中が戻りきっていないこの状況が一番難しく、その意味でも、細かく丁寧に現状を把握し対策を打つということで、今週中にもコロナ対策第8弾を打ち出したいと思っており、引き続き緊張感を持って対応したい。

今年度の施策では、実施できない事業も多く9月補正予算で減額した。進行中の事業では、例えば成人式でも基本的には実施する予定であり、その他の事業も極力実施するという方針で望んでいる。こうした市の姿勢をお見せすることで、皆様方が、きちんとした感染対策を取りながら、粛々と予定されたものをしっかりと進めていただくということに繋がると思っている。

その中で、既に来年度の政策の協議を始めており、各部局でこれまで練ってきたものを10月の初旬から市長、副市長を交えて時間をかけて協議を進めている。

こうした状況では、大規模に集客を伴うなどの大事業は打ち出しにくい状況であり、飛騨市総合政策指針のテーマでもある、身近な暮らし、市民の皆さんの生活の足元をしっかりと見て、そこに手を打っていくような政策を、今一度しっかりと追求したい。

コロナで得られた知見、ノウハウ、見方、そういったものを政策に反映していくということも念頭に置きながら協議を進めており、本日の総合政策審議会は、そうしたタイミングの中で、皆様方から来年度の事業に対するご要望、ご提案などを積極的にお出しいただき、政策協議の中で、一つ一つ実現できるように検討を進めて参りたい。

今回の総合政策審議会は、こうした趣旨で開催させていただくことから、忌憚のない、積極的なご意見ご要望を承ることをお願い申し上げ、冒頭の挨拶とする。

3. 会長挨拶【会長】

私は岐阜市在住だが、飛騨市のコロナ対策がテレビを通してかなりの頻度で聞こえてくる。最近では全国ニュースにもなるなど、しっかり市民の様子を丁寧にしながら対策を取っている印象がある。依然厳しい状況ではあるが、私自身も飛騨市に来る機会が月一回程度あり、昨日も前乗りし食事、宿泊と、個人的に何か少しでも貢献できないかと思って活動している。私は、宮川町種蔵集落で12年程前から集落支援を行っており、今年は新そば祭りが中止という中で、今年度からスタートさせている茗荷の休耕畑のプロジェクトで今月末から来月初めには学生を含め20人ぐらいでお邪魔し、集落の

お手伝いが出来ないかと考えている。

コロナ禍で出来ないことはあるが、コロナ禍の中でも出来ることがあり、一人一人考えて行動することが、こうした時代には必要だと考えている。

本日は、その中でも普段感じていることや、市が示した来年度の政策方針に対し忌憚のないご意見をいただければと思う。

4. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項①について説明。(資料①-1、①-2)

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【N委員】 「あんな飛驒市づくり」の「認知症高齢者による事故等の損害賠償保険の支援」の具体の中身と、「認知症診断ツールの導入」の自治体としての取り組み方を伺う。
また、「元気な飛驒市づくり」で、コロナ禍で都市部より地方へという考えが増えていと伺ったが、関係人口の取り組みで飛驒市に定住を考える方が増えたのかお伺いしたい。

【藤井部長】 「認知症高齢者の事故等の損害賠償保険の支援」は、認知症の高齢者が起こされる事故が結構あり、損害賠償について市として保険をかけることで、家族等の安心に繋がりたいと思っている。

「認知症診断ツールの導入」は、認知症早期発見を目的として軽度からの進行を遅らせたり、予防方法や生活アドバイスなど指導していくツールとしての導入を考えている。あわせて、予防の普及啓発に活かしたいと考えており、その中で生活上での困りごとや不安が見えてくることも想定している。

【岡部部長】 移住定住の数は、4月から9月までで38世帯、83人が移住されており、昨年同月比では世帯数は変わらないものの移住者数は14人増えている。相談件数もかなり増えていると聞いており、ここから先も感覚としては増えていくと感じている。

飛驒市ファンクラブも会員数は増えており、今年度から立ち上げた関係案内所「ヒダスケ」では、飛驒市に来ていただいて簡単なお手伝いをしていただくイベントを数多く実施しており、先ほど会長が話された茗荷の件もその一つ。参加者が増えている状況から、関係人口もかなり増えてきていると認識している。

【会長】 茗荷畑プロジェクトは、夏の収穫時は定員15人がすぐ満員になり、もうワンクール増やしたが、それもいっぱいになって結局30人参加していただいた。

【A委員】 「障害者就労支援事業所との連携による生ごみ減量化の推進」は、具体的にどのような

な内容を考えておられるのか。

【土田係長】 現在、生ごみの肥料化ということで「EMぼかし」を、希望される市民に配布している。高原エコクラブの方々が作られ、直接配布いただいたり市から希望者に配布しているが、ご高齢になられて今後の継続が難しいというご意見をいただいたことから、環境課としても継続させていきたいという中で、障害者就労支援事業所の皆さんと相談をさせていただき、業務の一部分を一緒に取り組んでいただけないか検討しているというもの。

【A委員】 今から12年前に、神岡町を中心に段ボールコンポスト事業が推進され、障害者支援施設「憩いの家」で、段ボールコンポストを制作し販売していたが、普及が難しく、事業として継続出来ず終了した経緯がある。良い政策だと思うので、過去の経緯など検証し実現に向けていただきたい。

【K委員】 「思い出に残る観光地づくり」の「スポーツ大会開催支援交付金の創設」の具体の中身をお教えいただきたい。

また、「関係人口の交流によるまちづくり」の新港郷との交流、ファンクラブツアーの今後の展望をお聞かせ願いたい。

吉城高校や飛騨神岡高校の生徒たちが、お互いに行き来して交流されているが、例えば中学生に拡大する考えがおありか。子供たちが交流し、どんな成果が将来的に見られたのかを評価するのは難しい話だが、そこに1人でも何か一つでも将来に関わり地域に還元できるものが必ずあるという強い願いがあり、過去にもこうした事業をされていた自治体があった。

【清水部長】 スポーツ大会の支援については、ふるさと納税を原資として、誘客に努めているスポーツ大会などに対し支援を考えている。現在も多くのサッカー大会など開催していただいております、こうした方々に、更に誘客に結び付く支援をしたいと考えている。

【土田係長】 新港郷との交流は、新聞でもご覧なられた方もあると思うが、先般リモートで新港郷とお互いの交流を促進するファンクラブを設立させていただき、飛騨市側では現在約120名加入いただいた。

ファンクラブツアーは、年1回はお互いに市民が行き来できるような機会を創出したと考えている中で、少しずつお金を貯めて皆さんと一緒に新港郷で交流ができるツアーを計画できないか旅行会社と調整している。

子どもたちの交流については、昨年度から小学校の英語の授業で、リモートでお互いに英語を使ってお互いの町を紹介する授業を年4回実施している。今年度はコロナで開催できていないが2月に実施する予定。高校生の行き来は、これも昨年度から、吉城高校と飛騨神岡高校の生徒が新港郷に約1週間滞在され、様々な交流をされている。このように若いうちに海外で様々な体験をすることは非常に重要であると考えており、しっかりと継続して支援していきたい。委員がおっしゃられた中学生への拡大

も今後検討していきたい。来年度は、新港郷の中学生の雅楽クラブをお招きし、こちらの中学生と一緒に交流ができないか検討している。

このように小、中、高、さらに大人になってもというような形で、それぞれの世代でお互いに交流できることを、今後も取り組んでいくとともに、農業などの経済的な分野でも交流ができないか現在検討しているところ。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題など、普段の生活でお困りのことも含め、お一人ずつご意見を頂戴したい。

【A委員】 先日、全国都道府県魅力度ランキングが発表され、岐阜県が36位から42位へ下がったと聞き大変残念である。飛騨市の魅力を今まで以上に全国へアピールしていくような情報戦略を練っていただきたい。

(仮称) 飛騨高山大学については、地元を飛び越して高山市との連携やイメージが強くなり過ぎないように、飛騨市の特性を活かした具体的な連携方法を今から考えていく必要がある。地元民が学生の里親になり、生活相談など日頃から交流し、飛騨市を第2の故郷と思ってもらえれば、将来飛騨市にとってかけがえのない財産になる。民間運営だとは思いますが市としてもバックアップを。

最後に、これからはコロナと共に生きる時代となる。これまでの対策の内容や効果実績をしっかりと分析・検証いただき、次の施策へ活かしていただきたい。

【B委員】 河合の道路路面の白線が除雪等で薄くなり見えなくなっている。道路によって担当が異なると思うが、湯峯トンネルから出た場所は、優先が逆に見えるようになっており、県にも要望しているがすぐには対応出来ないとの回答。市民目線でそのような道路の整備計画も立てていただけたら。また、朝霧街道に杉の木陰になる箇所があり凍結リスクが高いことから、伐採等の計画が進むといい。

用水路の整備では、山側は農業用水や消雪にも利用する大切な水路だが、地元負担が3割掛かる上にコストも高く、県補助も3,500万の5%負担でお願いしていたところ費用対効果を検証しづらいという理由でダメになった。生活する上で農業だけでなく、雪国であることも考慮し、必要性を訴えて実現できるようお願いしたい。

【C委員】 精神科の受診について、高山市まで行く必要があり、定期的に通う必要がある患者が途中で通院を止めるケースがあると医師から聞いた。以前は神岡地区の病院や介護施設に来ていただける先生がいて非常に助かったのだが、何とか週一の外来だけでも飛騨市民病院で出来るようになるとありがたい。

市議会でも実施されているペーパーレスのノウハウを蓄積し、市内の企業・団体にも広めていただいて、温度差なく皆が享受できるような仕組み、支援があるといい。施設を運営していく上で非常に困るのは施設や機器等の老朽化による更新。補助制度や国県の情報提供などで施設整備を進められる環境を作っていただけると非常にあ

りがたい。

【D委員】 先日、保育園で無事に運動会を行うことができたが、保育参観などは出来ていない状況。今後はなるべく行事などが出来るよう検討いただけると嬉しい。

病院では、発熱された方が事前の電話相談も無く入り口から入ってくることもあり、発熱がある方は別の受付に移動してもらう必要があるため、対応に慌てると聞いた。子どもが発熱した際に、保護者もどう対応していいかわからないところが多く、保育園や学校などを通して周知してもらえるとよい。

【E委員】 消防団員の確保が非常に難しい状況となっており、なんとか確保しているところも、このコロナ禍で全員集まって訓練することが非常に難しい状況。各班各詰所でのスキルアップや車両との連携を図るなど少人数で出来る訓練の充実をお願いしたい。改良組合でも5年10年先の農地をどうしてか検討しているが、今の耕作面積を確保できるようない知恵があれば改良組合にご教示願う。

【F委員】 少しPRさせていただくが、飛騨市のまちづくり拠点ということで、地元の人が集う、観光客が遊びに来る、みんなで一緒にイベントを楽しむなど、使う人の声で変化する場所を、元観光協会の場所で整備しており、11月1日にオープン予定。まちづくりの推進を目的として、作業や作戦会議、まちの情報集約、活動相談、イベントなどを行う場所として市民と観光客の方が交流したり、新しいものを生み出したり、そんな場所になったらと思っている。

意見だが、市の事業それぞれに納得感のあるゴールやクローズ、次のステップが設定されていると、成果が市民に分かりやすいのではないかと感じる。また、コロナ対策など多くの事業の中で響きが似ていて性質が全然違うものは混乱する。スピード感も非常に大事だが、ある程度で整理整頓していく必要もあると感じている。

【G委員】 船津火災の跡地利用について、市でアンケートを取っているが、集約結果をいつ頃発表されるのか。商店街がアンケート結果で工夫を考えたいと注目されている。

神岡の高原郷土館について、建築後50年が経過しており改修されるのか非常に危惧している。観光客が神岡に来ても見えていただくものがなく、できれば道の駅から近いところで郷土館や江馬館などを観光客のルートに取り入れたいと考えている。

スカイドームの2階を改修して食堂ができないか。JTBから、北陸を抜ける際にトイレ休憩と団体に食事がしたいと強い要望がある。

【N委員】 農業の分野で自治体が求人とのマッチングをしているところがあると聞いた。坂祝町ではパジェロ製造が閉鎖され、余所の事業所へと行った中で地元に残りたいという方のマッチングを行っている聞いた。自治体としてそうしたマッチングができないか。多重債務者の債務整理支援の構築ということで、住宅ローンの借り換えをし直している方が非常に多いと伺っており、これから一時金など夏は出たが冬は出ないといったことを心配されている方が非常に多い。弁護士に相談できるのは県だけだと思うが、

市でも身近に対応できるようになるといい。

70・80代の方が営農組合を中心に農業をやっておられる状況で、跡継ぎの若い方がいないわけではないが、あまり表に出てみえないと聞いている。担い手の育成なども考えていかなければならないと感じている。

【M委員】

市長も話されたが、2月から売り上げが激減したが、製造業はやや持ち直している状況。その中で融資の相談は速やかに対応でき、9月末である程度落ち着いた。それでも飲食、宿泊はまだまだという状況で、GOTO等を含め期待している。

今、経営者が一番心配しているのは資金繰りであり、持続化給付金、雇用調整助成金等で手当てができた小規模事業者もあれば、大規模事業者では足りないという状況。今後は経費削減や効率化を求め、売り上げがある程度の規模で利益が出て、雇用もできる体制にしたいという経営者が非常に多くなっている。

国から認知症高齢者のケアに対する指示が出ており、判断能力低下の恐れがあるお客様に対し、早期の財産の保護、そして健康、事故のないような接客改善が求められている。問題として氏名等を提供する場合、個人情報保護に抵触することがあり、緊急性が高い場合では本人の同意無く対応出来る部分はあるが、当然ご家族のご理解が必要で非常に難しい。こうした問題は待ったなしであり、皆様と協力し進めていきたい。

【L委員】

国が推奨しているデジタル化の流れの中で、例えば、ICTを活用した在宅医療や、市役所の対市民業務の簡素化などが検討されるとよい。

子育て世代の世帯が増えれば当然町も活気づくという考えの中で、今の後継ぎ問題や空き家問題などうまく結びつけた政策があると良い。また、世帯を持ってみえる人に2人目3人目というようにお子さんを作ってみようかなという後押しになるような政策があってもよいと思う。

赤バイについて、こうした山岳地域で、災害時の利活用など検討できないか。

【K委員】

学校の関係で、なかなか教室に入れない、学校に来るのが嫌というような子どもが、一室でスタディーサポーターと一緒に学習していると聞き、大変ありがたいことだと思っている。こうした子どもたちが増加傾向にある中で、例えば、古中の場合だけになるが、リニューアルを検討されているトレセンの一室を活用し、こうした子どもたちがスタディーサポーターと一緒に活動できると非常によいと思う。

飛騨市は人工芝や天然芝のグラウンドが県内でも多く整備されている。こうした場所に外からの色んな方を誘致し観光に寄与するという目的があることは承知しているが、地元の子どもたちにも、もう少し活用の場面ができるといいと考えた時に、例えば新港郷の子ども達を招待して地元の子ども達とのスポーツ交流のような活用があってもよいのではないかと考えている。

【J委員】

広葉樹に限ってだが、山の立木の位置、形、大きさ、樹種、これを製作作家の方へ立ったままの状態で提示し、注文を取ってから切り出し出荷するといった事業を進めた

いと考えており、そのためのデータ収集を行うシステムを作っていきたい。ある程度、軌道に乗った段階で協力、支援をお願いしたい。

森林の集約化・境界明確化の推進を集落協議会2名で行っているが、負担が大きいことから、明確化の部分の測量コンサルタントへ外注することを検討いただきたい。

高性能林業機械について、非常にありがたい。将来的な話だが、林野庁の補助は生産性の向上要件が4割増と、機械更新で向上するには非常にハードルが高い。令和3年度ということではないが、将来的に更新時期には助成を検討いただきたい。

植物の主要成分から作られるナノセルロースが、現在、京都大学で研究されており、この情報が民間では取りにくいことから、行政から情報提供していただきたい。また、恐らく将来的に主流となる核融合発電についても情報収集にご協力いただきたい。

【I委員】

キクラゲやイチゴの生産について、若い農家がクラウドファンディングをスタートさせ、目標金額を3日で達成しており、市からも引き続きのご支援をお願いしたい。

市では多くの事業を計画されており、予算の心配もあるが、地域資源を生かした産業づくり、広葉樹を生かす進め方は、真にこの地域に合っていると思う。更に進めていただき、耕作放棄地を活用した薬草畑など新たな活用の仕方も検討いただきたい。

「新たな住宅購入新築リフォーム等に係る支援制度の創設」について、今年度実施されたが一気に予算を使い切るほど大変評判が良かったと聞いた。一方で全く知らなかった市民もおり、全市民に伝わるようなPRの検討をお願いしたい。

鳥獣害対策で、銃を所持している人の負担が非常に大きい。昔のように鳥獣捕獲を生業としているのではなく、有害鳥獣捕獲のために銃を所持している人がほとんどの状況。どんどん高齢化して少なくなっているところに、若い人が狩猟免許を取得し長く継続してもらえるよう支援をお願いしたい。

広葉樹の関係で、広葉樹が育む水を上手くPRに使えないか。例えば、数河や神岡でも市街地に山水が多くあると思うが、そうした水の成分を調べてPRしたらどうか。

【H委員】

祭りの呼び引き料理ツアーについて、呼び引き自体は2・30年程前から経済的な負担や準備の大きさから徐々に少なくなってきており、再現は難しいと思うが経済活性化の一助になると思っている。来年の起こし太鼓について検討に入りつつあるが、コロナの収束が叶わなければ、来年も挙行が不可能かと思っている。

数河地区での文化系の合宿誘致について、公民館などを使っていただいて演奏の練習などをしていただいたらどうかと地元で提言したことがある。今後も観光協会としても検討していきたい。

市内の飲食について、宴会に関しては皆無であり、宿泊と宴会を兼ねている事業者はまだよいが、宴会だけの事業者が一番苦慮している。また、飲食店では、「地元客以外お断り」という張り紙を出されている店もあり、撤廃して欲しいという思いはあるが強制できず苦慮している。

商工会と飛騨市観光協会の連携が上手くいかないところがある。GOTO キャンペーン

にもさくら物産館にご参加いただきたかったが叶わず、また、きつね火まつり時の夜市などにもご協力いただけていない。私どもの努力不足もあるが、市からもバックアップいただけるとありがたい。

GOTO トラベルなど、申請が全てネットを通じて行わなければならないが、市内の旅館などの経営者は高齢者が多く苦慮している。市でパソコンの使い方がわからない方への申請支援をしていただけており、PRを大いにしていただけて参加していただける体制をとっていただければ大変ありがたい。

【会長】 最後に市長からご意見いただく。

【都竹市長】 A委員の魅力度ランキングについては、岐阜県はダウンしたが飛騨市は60位から47位へ大幅アップしている。県内で50位以内は下呂市の43位と飛騨市だけ。観光に限らず広葉樹や薬草など様々な取り組みをして情報発信していることが知名度の上昇につながっていると感じており、各施策に取り入れていきたい。

飛騨高山大学は、毎月会議の場を持ち一緒に進めさせてもらっている。里親というお話で、そうしたことができるのが小さな地元密着大学の意義であり、広い意味でのホストファミリーのようなことが実現できるよう議論していきたい。

対策の効果検証は、F委員からもご意見いただいたが、現在再整理をしており、実際あまり使われなかった施策もある。危機管理的な対策であり、まずやってみてすぐ方向転換することが検証になると考えており、使わなかった予算は次の事業に活用するなど目先をどんどん変えて進めていく方針であることをご理解賜りたい。

B委員からの道路、水路の維持については、各地区やドライバーからも頻繁に要望をいただけており、引き続きご意見を聞きながら、限られた予算ではあるが、対応していけるよう県ともよく相談しながらやっていきたい。

用水路の地元負担は、区が小さくなっていくと負担が大きくなるという問題があり、小さな集落や人口の減っている集落は補助率を上げたり負担軽減して傾斜をつけるような方法について、来年度ということではないが問題意識を持って議論している。

C委員からの精神科のお話は、飛騨市民病院だと富山大学から来ていただくことになると思うが、精神科というのは診療報酬だけでは厳しく、入院など含めて採算がやっとなるといったところがある。全国でも非常に求められており、認知症対策の上では不可欠であることから、国への政策提言も含め考えていく必要がある。市民病院での診察も富山大学とよく議論していきたい。

ICT化、ペーパーレス化の市内企業等への拡大については、国のテーマにも沿う中でいいチャンスだと思っており、ぜひ検討していきたい。

施設の大規模修繕については、市でも大変苦慮している。先般、市美術館のリニューアルの議論をする中で、リニューアル以前に空調の修繕が必要であることがわかったが、ハートピアもそうだが、空調の修繕には億単位の費用がかかり、国から何の支援

も無い。とはいえ、医療機関福祉施設等は社会機能を維持する上で不可欠という位置づけの中で、何が考えられるかよく議論していきたい。

D委員からの保育園等での行事については、できるだけやってもらいたいという思いであるものの、それでもやはり行事を進めると誰が責任を取るのかという声で中止されることが多い。誰の責任でもなく、かかるときは皆かかるのだが、こうしたマインドを変えることに大変苦慮しており、これがコロナ対策の中で一番難しい問題である。その中で、行政、公的機関が率先してやるのが、「できるじゃないか」という気運に繋がるのではと思っており、積極果敢にやっていきたいと思っている。

発熱時の受診方法は、これからインフルエンザの流行時期を迎えることもあり、対応のわかりやすいチラシやPRについて早速検討し、できるだけ早く対応したい。

E委員からの消防団員の確保については、支援団員は増えているが、基本団員が減ってきており、厳しい状況であることは間違いない中で、訓練の工夫もお願いしていかなくてはならない。県も含め議論を深め、何か出せるものがあれば団とも相談させていただきながら勧誘策について考えていきたい。

高齢化による耕作の問題は解がなく難しいが、担い手への集約が一つの解ということで、10年後を地図に落とし優良農地で厳しいところから土地改良を進めており、現在是重・杉崎地区に取り組んでいる。一つの道筋として少人数で大規模な農業をしてもらうのが収益、農地を守ることになると思っているが、時間もかかるため、トマト研修所による研修生や新規就農者の獲得といった地道な取り組みからも進めているということでご理解賜りたい。

F委員からの各施策の納得できるゴールについては、特にコロナ対策については目の前で考えてパッと進めている状態ではあるが、コロナ対策以外の事業も含め出来るだけわかりやすくしていきたい。

施策の目標設定は、初期設定するものだけでなく、ある程度取り組んでから設定するものもあると考えており、事業を進めていくと大体このくらいだろうというラインが見えてくる。薬草拠点施設の「ひだ森の恵み」などはまさしくそのやり方で、月収100万目指したいという中で、一里塚としてまず50万達成を目標にしている。これらの政策の調整については、ご指摘を踏まえ見直していきたい。

G委員からの船津火災の跡地活用については、有効な土地だと思っているので、皆さんの意見を聞きながら、方針を早めにまとめていきたい。

高原郷土館のリフォームは、現在まちづくりアンケートを実施中で、計画の中の大きなファクターになると考えており、まちづくり検討委員会の議論を注視しながら財源手当ても含め、来年度予算には間に合わないと思うが、方針を出せるよう頑張りたい。スカイドーム2階の改修については、過去に検討し見積りもあるが、予想以上に金額が大きく踏み出せずに見送った。問題意識は持っており、財源が確保できれば実施し

たいが、全体のバランスもとる必要がありご理解いただきたい。

N委員の求人求職のマッチングについては、それも一つの案かと思う。これまでの施策は、体力のある会社に仕事を作ってもらうことに力を入れてきたが、よく聞いてみると、ホテル等で接客業をされていた方が求職され、他方で建設や農業の求人があっても、そのタイプの仕事はできないというミスマッチが起きている。数字上の議論よりも、様々な仕事を提供することが大事なのではないかと考え、市の会計年度任用職員の募集も他市と比較しても複数回募集し実際に働いていただいている。今後は、様々な仕事の掘り起こしを重点に、新年度と言わずできることから検討したい。多重債務者の整理支援については、相談体制だけでなく支援制度を取り入れられないかなど、来年度に向けて多角的な検討をしており、その中で反映させていきたい。

M委員の融資の件等は、金融機関を通しての相談、支援になることから、市は制度を用意する形なので、引き続き連携を密に現場の変化から仕組みや制度の希望を言っていて、対応させていただきたい。

認知症高齢者の財産保護は、今まであまり認識が無かった分野。どうすべきか新年度の政策協議の中に盛り込んで検討していきたい。

L委員からの在宅医療については、市でも中期のテーマにしており、飛驒市は各クリニックのドクターの高齢化により在宅医療へのウエイトが高まることが想定される。在宅医療には、在宅医療を行う医師、訪問看護師と訪問ヘルパー、訪問歯科・リハビリ、薬局などが連携して行っていくことになるが、中でも重要なのはドクター、訪問看護、訪問ヘルパー。ここを数年中に充実させていきたいと考えている。

デジタル化については、市役所の中のことや手続きについて、現政権の重点にも置かれていることから積極的に取り組んでいきたい。このコロナ禍で ZOOM を使った遠隔会議などがあつという間に進み、市長室と振興事務所で会議することで往復 1 時間の移動時間が削減できており、今後も市役所内や市内でフリーに仕事ができるオフィススペースの Wi-Fi 環境の充実なども来年度予算の中で反映させていきたい。

防災の面で赤バイの活用については、これまであまり考えたことが無く、早速どんなことができるか検討していきたい。

K委員からのスタディーサポーターの話は、今充実の議論をしており、新年度で何かしら強化を図りたいと思っており、場所のご提案も参考にさせていただきたい。

子ども達のグラウンド利用については、ピンポイントの話ではないが、来年度の政策の一つの考え方の中で、子どもの目線、立場に立って求められているものを支援するという視点が、これまであまり考えられていなかったのではないかと考えている。ふるさと納税を活用した給食や楽器購入支援のように子ども達が喜ぶという観点がまさにそれに当たる。「子育て支援」というより「子育て支援」というような視点を政策の大きな考えとし、その中で新港郷との交流なども検討していきたい。

J委員からの広葉樹の山をショールームというお話は非常に面白いご提案で、早速取り組まれておりありがたい。今後、市としてサポート策を検討させていただく。

集約協議会の負担については、今議論しており、コンサルへの外注というお話もあったが、負担軽減、充実についても検討したい。

高性能林業機械の更新については、まさしく議論している最中で、早速反映させたい。ナノセルロースと核融合発電の話については、情報収集したい。核融合は、原子力発電と全く違うが勘違いされていることが多い。研究から発電の段階に入るかという時期であり、注目し情報収集したい。

I委員のキクラゲやイチゴの件については、早速動きが出て喜んでいるところであり、引き続きサポートしていきたい。

来年度予算の税収減のご心配の件は、飛騨市は企業税収が非常に小さい自治体であり、好景気・不景気の影響を受けにくい体質。また、地方交付税が多いことから国の地方財源の方針によるところが多く、今のところ国の地方財政計画では前年並みを維持する方針が示されているところ。極端な減はないと思っているが、全体的にある程度厳しくなることを見越して絞るという予算編成方針である。他方で、ふるさと納税が堅調に推移しており、昨年度の残の活用も含めて検討する。

リフォーム助成のご指摘で、周知し切れなかったのはおっしゃる通りで、とても評判がよかった反面、あそこまでの反響を予測できず、伝えきる前に予算が尽きてしまった状況。来年度は通年予算としてじっくり構えて実施できるよう検討している。

有害鳥獣対策で銃を持つ方への支援については、確かにお金がかかるころについてあまり支援がなく、早速、来年度予算の中で検討させていただきたい。

水のPRについては、「広葉樹豊かな森が生み出す水が全ての恵みに繋がっている」というストーリーを描き、観光庁の補助金を活用してPR動画を製作したいと考えていたが落選してしまった。色んな切り口を追及し、成分分析についても検討したい。

H委員からの観光全般のお話は、コロナの収束やマインド変化がないと難しく、何とか耐え忍んでいくが、その中でも気持ちを冷やさないよう、祭りなど来年の春のことで議論も始まるが、できる部分は何とかやるというところを模索していかないといけない。今時点でまだ何とも言えないが、こうした基本的なスタンスの上で、感染対策の情報提供や相談に乗らせていただきたい。

数河地区の文科系の合宿については、例えば練習は文化交流センターを使用し、宿泊は数河地区でということもある。補助制度も準備しているが、宿泊施設の皆さんの動きが一番大事であることから、引き続き、観光協会でも働きかけをお願いしたい。

地元客以外お断りの張り紙については、古川町内でも多く貼ってあり、観光客からの苦情に繋がるケースもある。地元には絞っても感染リスクは変わらないと申し上げているが、お店の判断であり強く言えない。正しい知識、情報の提供が重要だと考えており、繰り返しチラシや研修を行っているが、引き続き粘り強くやっていく。

GOTO キャンペーンのネット申請については、市で申請代行を実施しているが、結局は個々の施設に努力していただく部分もあり、粘り強く働きかけていく。抜本的に改善する方法が無く、人員を確保するほどでもないことから苦慮しているところ。また、GOTO 終了後の2月以降の需要について、宿泊予約がかなり少ないと聞いている。次の対策を打ちたいと思っているが、GOTO トラベルが広がる中では、地域を絞ったキャンペーンの方が効果的ではないかと考えている。また、発表させていただく。

いずれにしても、まさしく今のタイミングであれば次年度予算に反映させることができ、それがこのタイミングで総合政策審議会を開催する意味である。頂いたご意見は早速丁寧にもう一度改めて整理分析し進行中の政策協議の中に反映させ、予算編成の中でできるだけ取り込んでいきたい。12月の第3回の際には、皆様のご意見を踏まえたひとまずの答えを出させていただき、ご意見を賜る予定としている。

【会長】

本日もそれぞれご専門の分野からのご意見や一市民としての身近な話題など多岐に渡ってご意見をいただいた。前回の会議でも申し上げたが、この総合政策審議会のように、次年度の事業案の検討段階からお示しし、皆さんからご意見を聞くという手法は、全国を見ても私の知る限り無い。まさに市民議会的な立場になっており、市民からの意見を市の事業に反映出来る仕組みとしてとても素晴らしいと思っている。引き続き、本日の意見等をお近くの方にお話いただくなどして、飛騨市全体でまちづくりを進めていくことをお願いしたい。

5. その他【土田係長】

今後のスケジュールについて説明。（資料②）

6. 閉会【湯之下副市長】

飛騨市はご承知の通り合併により誕生した市。世代ごとの職員数もバラバラで大量の定年を迎える世代に入っている。昨日、来年度採用する職員の面接を行ったが、自ら学ぶ姿勢、行動に移す姿勢を持っている方は、非常に魅力的に感じたところであり、私たち現役の職員は、当然そういった姿勢で、向かっていかなければならない。

夏の期間は、各部局における課題などを勉強する期間と位置付けており、それを受けて市長ヒアリングを迎えるということにしているが、本日委員の皆様方からいただいた提言意見は、管理職を中心に更に勉強し次に活かしていきたい。

以上をもって、第2回審議会を閉じる。